

2022年3月期 決算説明資料

株式会社島精機製作所

2022年5月

2022年3月期決算概要

(百万円)

	2022年3月期	前期比	2021年3月期
売上高	30,998	+26.6%	24,489
営業利益	△4,296	-	△9,143
経常利益	△3,400	-	△7,273
親会社株主に 帰属する 当期純利益	△3,589	-	△17,866

為替レート(円)	2022年3月期	2021年3月期	
ドル・円	122.39	110.71	期末為替レート(上段)
	111.87	106.36	平均売上レート(下段)
ユーロ・円	136.70	129.80	
	130.80	124.14	

ハイライト

事業概況

上半期はアパレル・ファッション業界では新型コロナウイルスによる消費低迷からの回復の兆しが見られ、それに伴って設備投資需要も回復基調にありましたが、下半期以降には半導体をはじめとする部材調達難により、引き合いが強い中でも受注に結びつけられない状況が続きました。

【横編機】

バングラデシュやベトナムなどOEM型の大量生産を行う地域で従来型のコンピュータ横編機の需要が低迷しました。一方で、中国国内向けやイタリアの高級品向けの設備投資が広がり、ホールガーメント横編機等の需要が高まり、全体として売上高が回復しました。

【デザインシステム】

- ・デザインシステムのAPEXシリーズに新たにサブスクリプション型のソフトウェアサービス「APEXFiz」をリリースし、欧米アパレルブランドを中心にライセンス契約数が伸長しました。
- ・自動裁断機「P-CAM」については国内市場で売上高が回復傾向となりました。

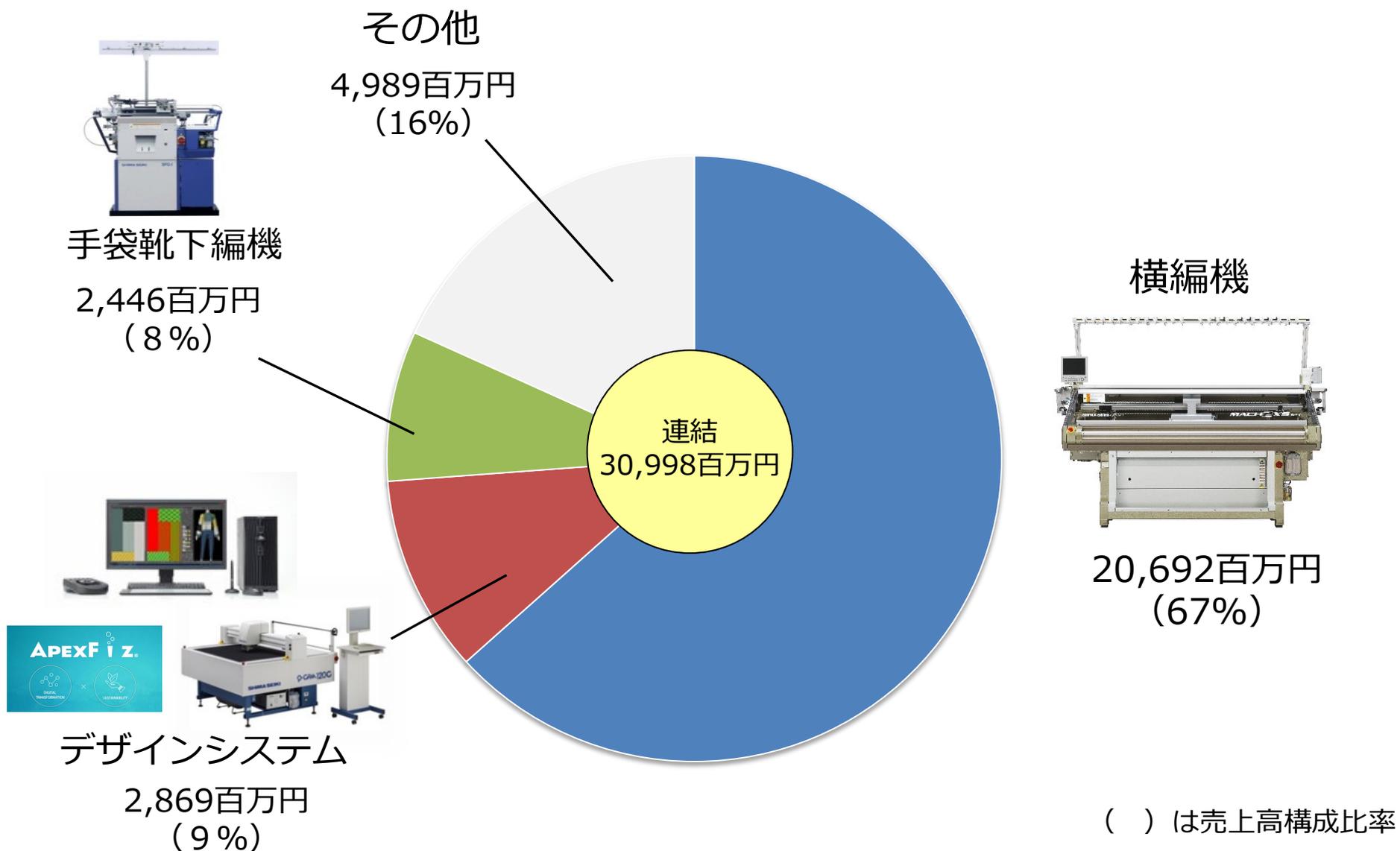
【手袋靴下編機】

大手ユーザーによる設備投資が進んだため、手袋靴下編機の販売が好調に推移しました。

利益面

- ・売上高の回復に伴い、工場操業度が回復し、売上総利益率が上昇しました。
- ・半導体などの部材価格の高騰、世界的な海運輸送費の高騰により、製品原価が上昇しました。
- ・積極的な研究開発投資を実施した一方で、設備投資は必要最低限の投資を行いました。

事業セグメント別売上高（連結）



事業セグメント別売上高・営業利益

(百万円)	売上高		営業利益	
	売上高	前年同期比 (%)	営業利益	前年同期比 (%)
横編機	20,692	+33.1%	588	—
デザインシステム	2,869	+14.4%	732	+544.6%
手袋編機	2,446	+24.2%	14	—
その他	4,989	+11.8%	528	+4247.4%
消去			△6,159	
合計	30,998	+26.6%	△4,296	—

事業セグメント（横編機事業）



ホールガーメント横編機

- ・一着丸ごと立体的に編み上げる「MACH2XS」
- ・環境に配慮したモノづくりを実現
- ・ファッション小物・マスク製作等に適した「SWG-N2」

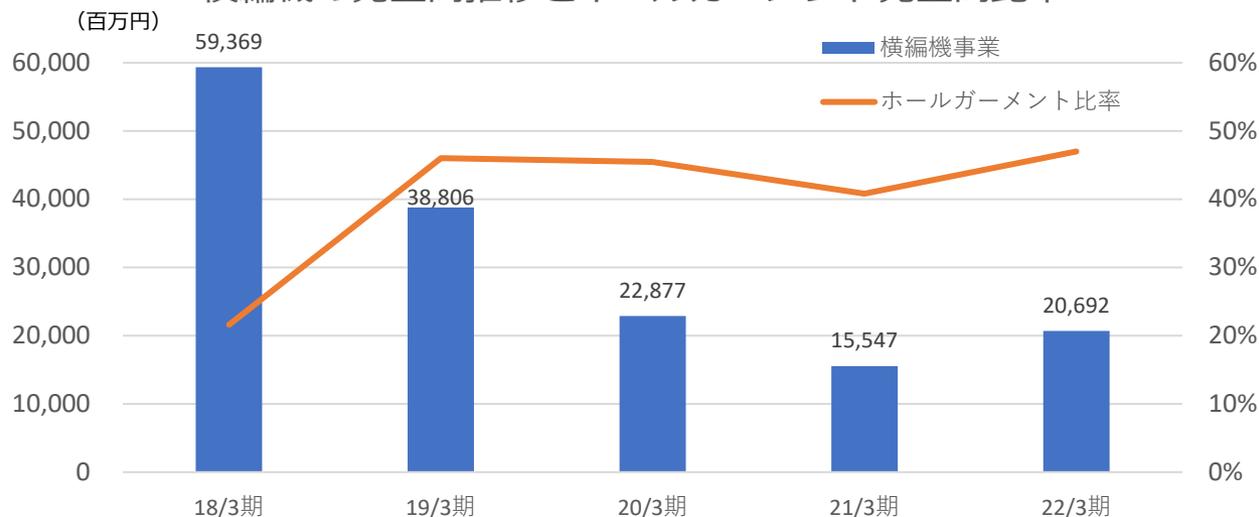


コンピュータ横編機

- ・パーツ毎に生地を編み、縫製・リンクング作業で完成させる
- ・編地に付加価値を高める「SRV」「N.SIR」「N.SVR SP」
- ・アジア等ボリュームゾーンの生産に用いられる「N.SVR」「N.SSR」

ホールガーメント売上高比率が40%以上で推移

横編機の売上高推移とホールガーメント売上高比率



事業セグメント（デザインシステム事業）



3Dデザインシステム「SDS-ONE APEX4」

- ・ 編み機のプログラミング、パターンCADに加えて、横編み、織物、プリント、丸編みなどのテキスタイルデザインやシミュレーションに特化したソフトウェアを搭載

デザインソフトウェア「APEXFiz」



- ・ デザインシステムのサブスクリプション型ソフトウェア
- ・ お手持ちのパソコンにダウンロードし、いつでもどこでもデザインが可能に

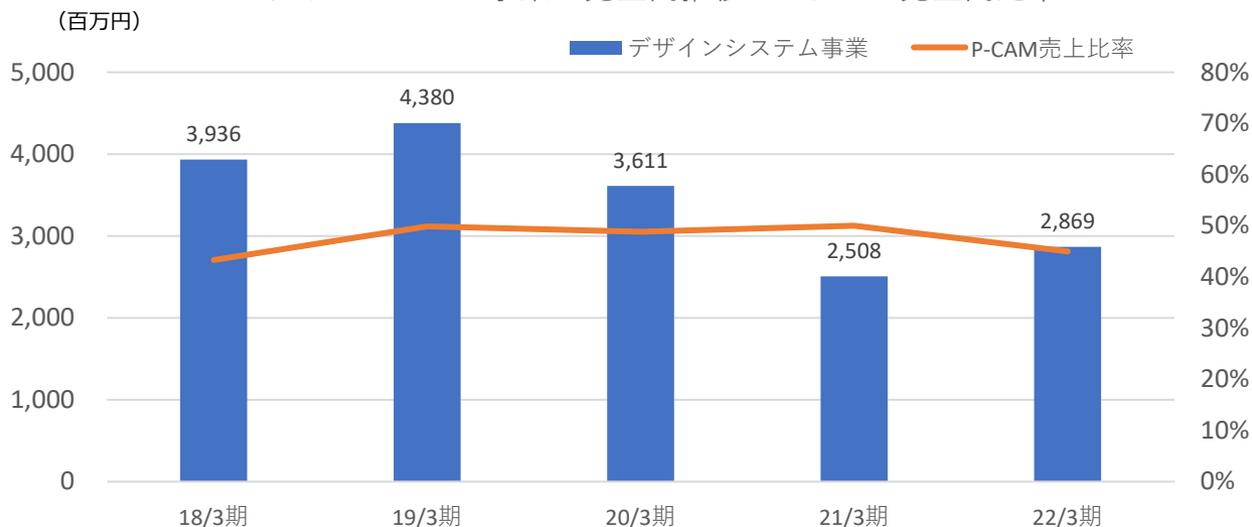


自動裁断機「P-CAM」

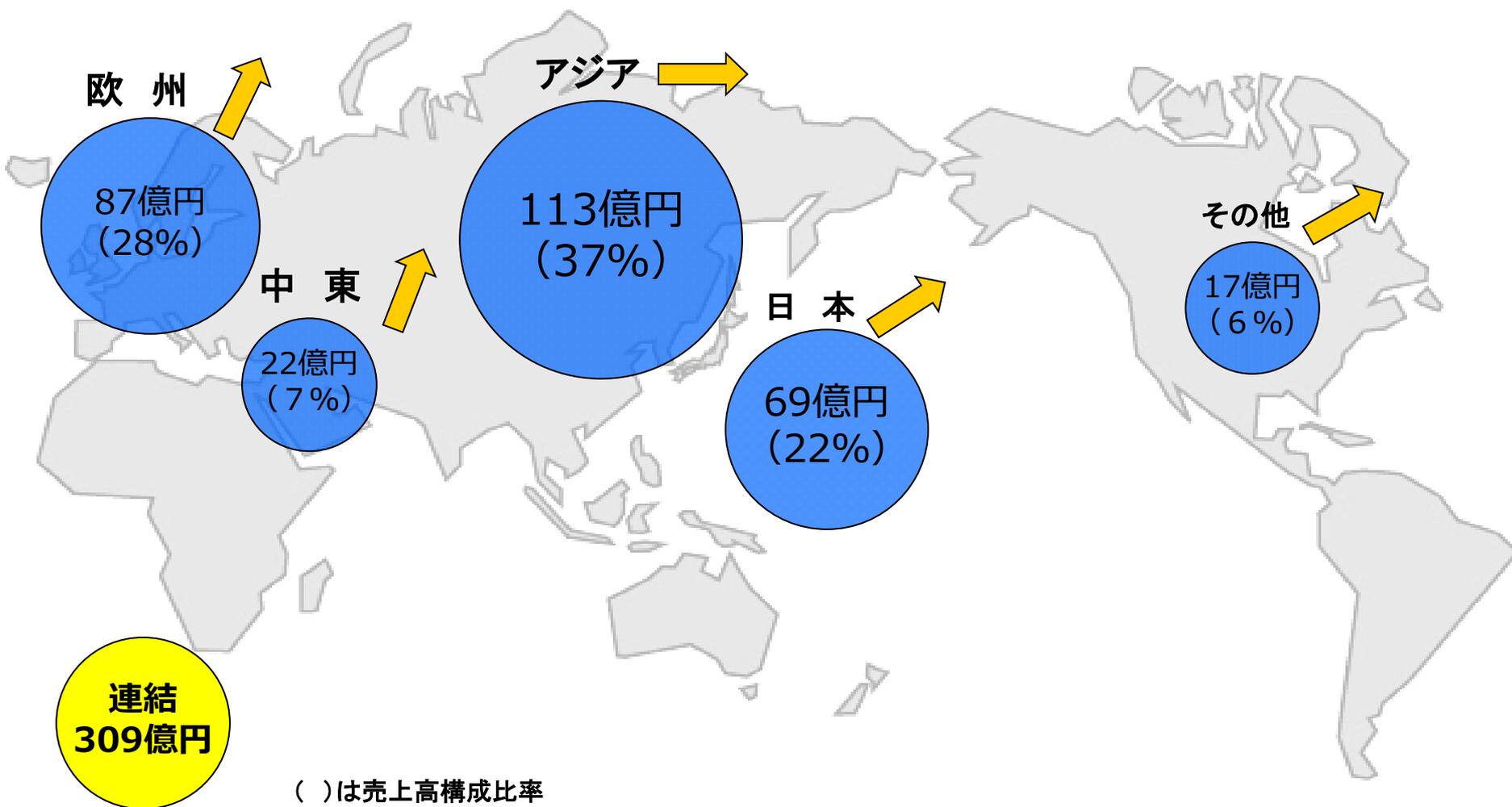
- ・ 自動裁断機のみならず、生地裁断の前後工程の省人化を実現するため、延反からラベリング、ピックアップ装置を提供。「Shima Cutting Solutions」としてアパレル業界、自動車、産業資材、など様々な業界へ浸透を図っている

当期はP-CAMの売上高比率は45%

デザインシステム事業の売上高推移とP-CAMの売上高比率



地域別売上高構成〔連結〕



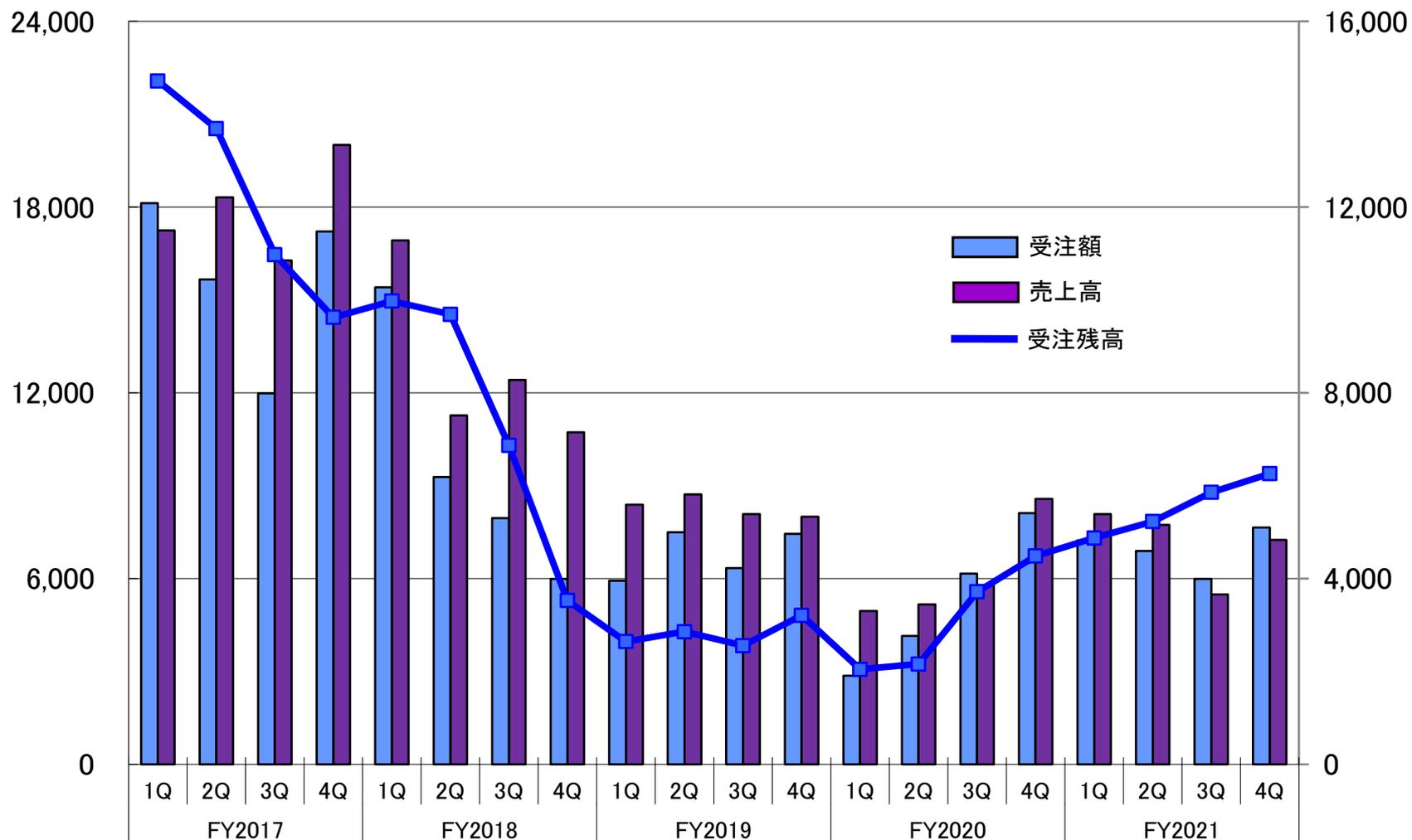
地域別売上高〔連結〕

(百万円)	2022年3月期	2021年3月期	前年同期比 (%)
日 本	6,928	5,609	+23.5%
欧 州	8,772	5,153	+70.2%
ア ジ ア	11,379	11,432	△0.5%
中 東	2,201	961	+129.0%
その他(海外)	1,715	1,331	+28.8%
合 計	30,998	24,489	+26.6%

受注・売上・受注残四半期推移〔連結〕

受注・売上高(百万円)

受注残高(百万円)



四半期別業績推移〔連結〕

(百万円)	2020/3				2021/3				2022/3			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	8,393	8,724	8,089	7,998	4,954	5,171	5,787	8,574	8,081	7,733	6,691	8,491
営業利益	△872	△1,838	△1,145	△1,746	△1,970	△2,213	△2,371	△2,588	△644	△913	△1,624	△1,113
経常利益	△944	△1,954	△963	△1,721	△1,414	△1,721	△1,777	△2,360	△154	△689	△1,473	△1,082
親会社株主に 帰属する 当期純利益	△689	△1,372	△852	△5,513	△1,463	△1,745	△1,861	△12,796	△271	△797	△1,567	△952

(百万円)

受注高	5,934	7,495	6,345	7,447	2,868	4,153	6,160	8,120	7,235	6,897	5,994	7,651
受注残高	2,647	2,858	2,558	3,211	2,048	2,163	3,716	4,489	4,877	5,229	5,858	6,260

貸借対照表〔連結〕

現金及び預金 当期末24,339百万円（前期末25,636百万円）で、前期末より1,297百万円減少
 売掛債権 当期末39,498百万円（前期末44,823百万円）で、前期末より5,324百万円減少
 たな卸資産 当期末15,098百万円（前期末16,213百万円）で、前期末より1,114百万円減少
 自己資本比率 87.2%（前期末81.7%）

（百万円）	2022年3月期 期末	2021年3月期 期末	増減
流動資産	74,536	82,811	△8,275
固定資産	27,273	27,328	△55
（有形固定資産）	16,250	16,043	+207
（無形固定資産）	2,114	2,302	△187
（投資その他の資産）	8,907	8,983	△75
資産合計	101,809	110,140	△8,331
流動負債	8,188	14,633	△6,445
固定負債	4,825	5,470	△644
負債合計	13,013	20,104	△7,090
株主資本	85,899	89,996	△4,097
その他の包括利益累計額	2,862	△0	+2,863
新株予約権	16	23	△7
非支配株主持分	17	15	+1
純資産合計	88,795	90,036	△1,240
負債及び純資産合計	101,809	110,140	△8,331

（百万円未満切り捨て表示）

キャッシュ・フロー計算書〔連結〕

営業活動によるキャッシュ・フロー
 投資活動によるキャッシュ・フロー
 財務活動によるキャッシュ・フロー
 現金及び現金同等物の期末残高

売上債権、棚卸資産の減少などにより、61億96百万円の資金の増加
 有形固定資産の取得による支出などにより、10億23百万円の資金の減少
 短期借入金の返済、配当金の支払いにより、77億59百万円の資金の減少
 前年末に比べ13億11百万円減少しました。

(百万円)

項 目	2022年3月期 期末	2021年3月期 期末
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,196	5,937
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,023	1,299
財務活動によるキャッシュ・フロー	△7,759	△3,776
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,275	538
現金及び現金同等物の増減額(△減少)	△1,311	3,999
現金及び現金同等物の期首残高	25,582	21,582
現金及び現金同等物の期末残高	24,271	25,582

(百万円未満切り捨て表示)

2022年3月期〔連結〕営業活動

【展示会実績（一例）】

- 6月 ITMA ASIA + CITME（中国）
Pitti Filati 89（イタリア）
 - 12月 SAMPE Japan 先端材料技術展 2021（日本）
 - 2月 大阪ミシンショー（日本）
Pitti Filati 90（イタリア）
- ⇒リアル展示会が次々と再開



【営業・サービス活動】

- 国内：コロナウイルス感染状況を見ながら、営業活動を再開
- 海外：国の越境は難しい中、販売子会社を中心に営業活動が活発化

【ウェビナーの開催】

- 2021年4月～2022年3月
- 開催ウェビナー回数 28回
- （日本語11回/英語9回/中国語7回/スペイン語1回）
- 参加人数 約2,962名
- 参加者国数 87か国



2023年3月期業績計画〔連結〕

	(百万円)		(百万円)
	2023年3月期	前年比(%)	2022年3月期
売上高	47,000	+51.6%	30,998
営業利益	1,000	—	△4,296
経常利益	1,600	—	△3,400
親会社株主に 帰属する当期純利益	1,200	—	△3,589

通期計画の前提 為替レート 125円/米ドル 135円/ユーロ

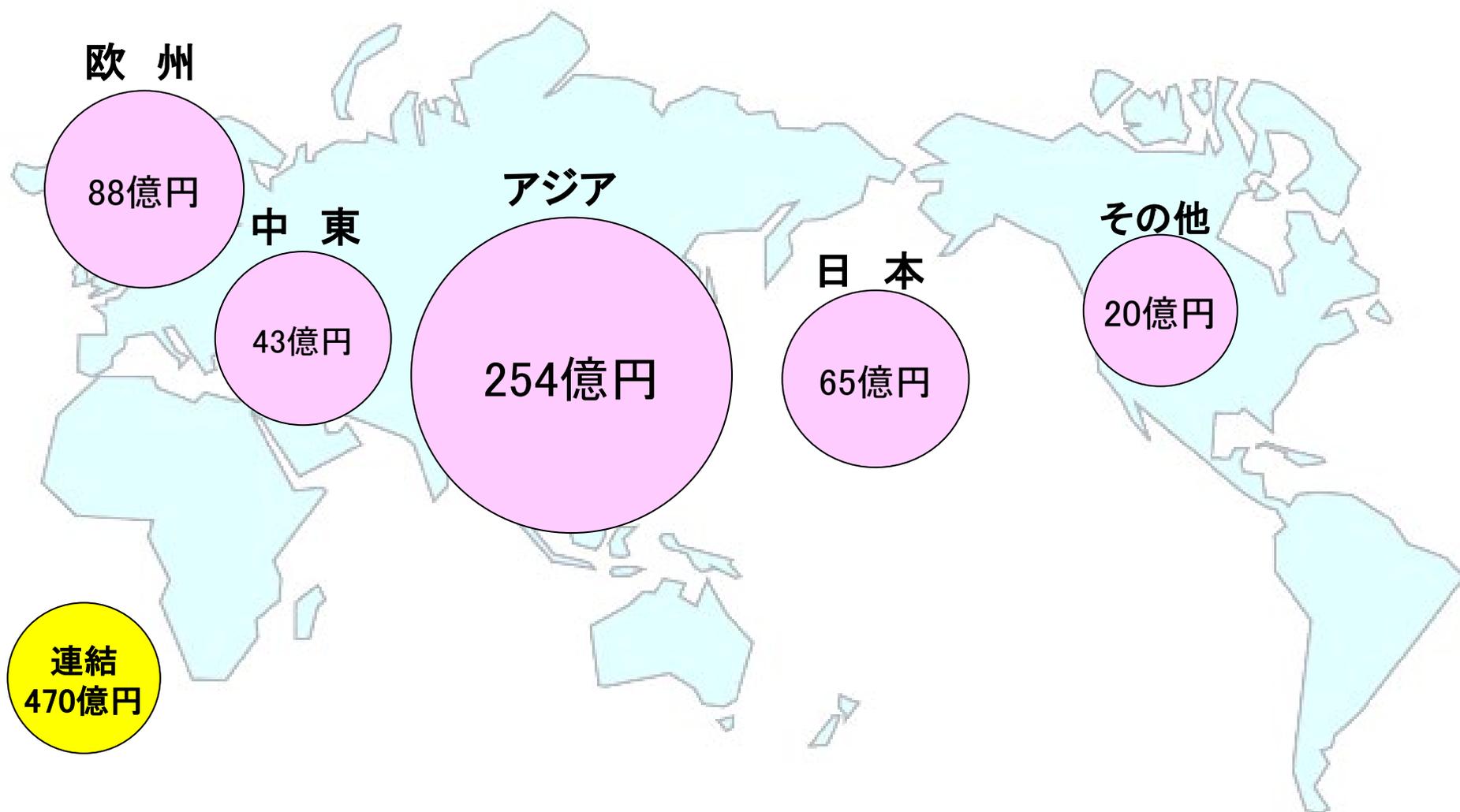
為替が1円変動した場合の営業利益への感応度 米ドル26百万円 ユーロ13百万円

2023年3月期業績計画〔連結〕

【事業セグメント別】

(百万円)	売上高	前期比 (%)	営業利益	前期比 (%)
	通 期		通 期	
横 編 機	36,600	+76.9	5,800	+886.1
デザインシステム	3,250	+13.3	900	+22.9
手袋靴下編機	1,650	△32.6	0	-
そ の 他	5,500	+10.2	600	+13.6
消 去			△6,300	
合 計	47,000	+51.6	1,000	-

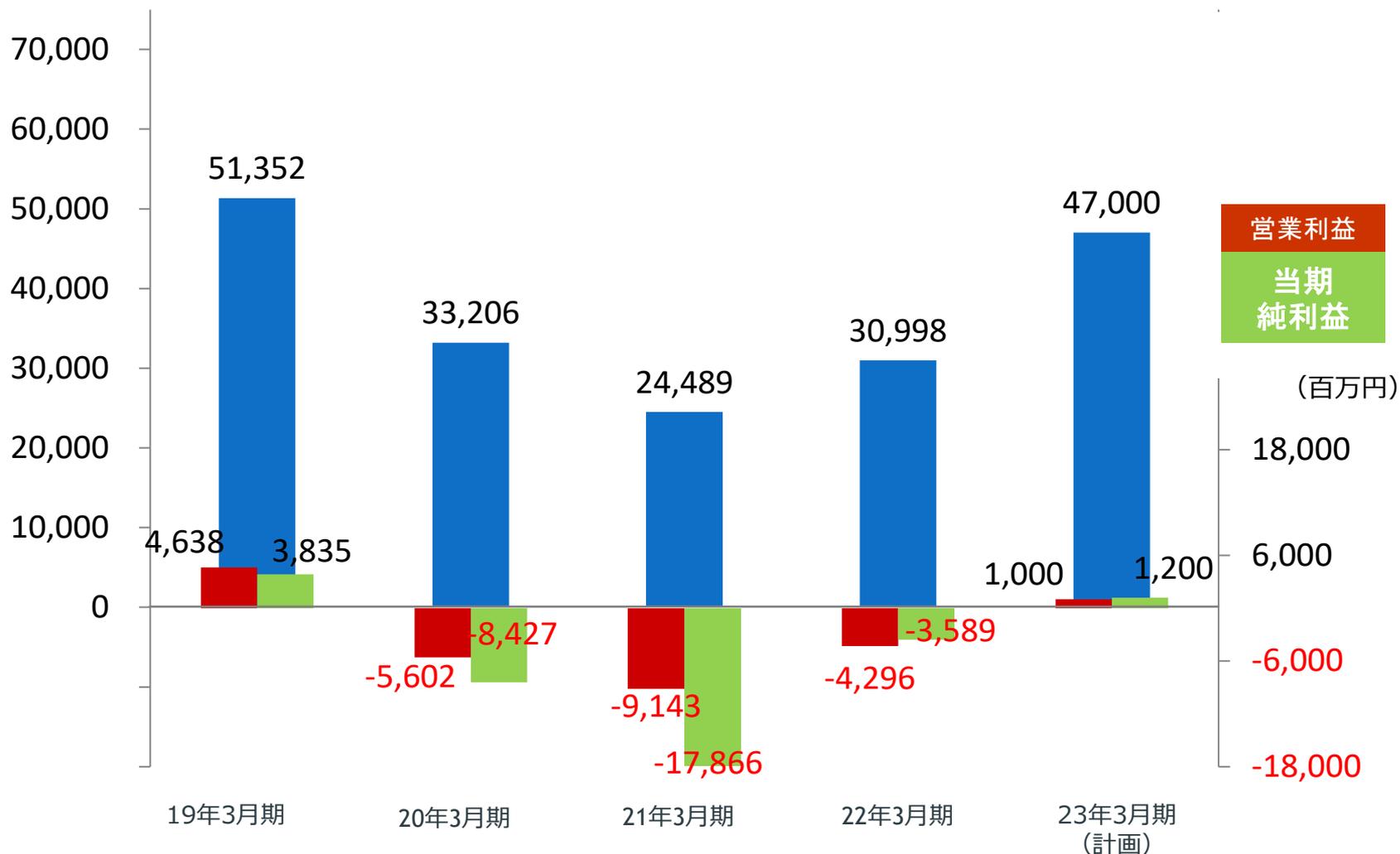
2023年3月期業績計画〔連結〕【地域別売上高】



売上高・利益の5か年推移〔連結〕

売上高

(百万円)

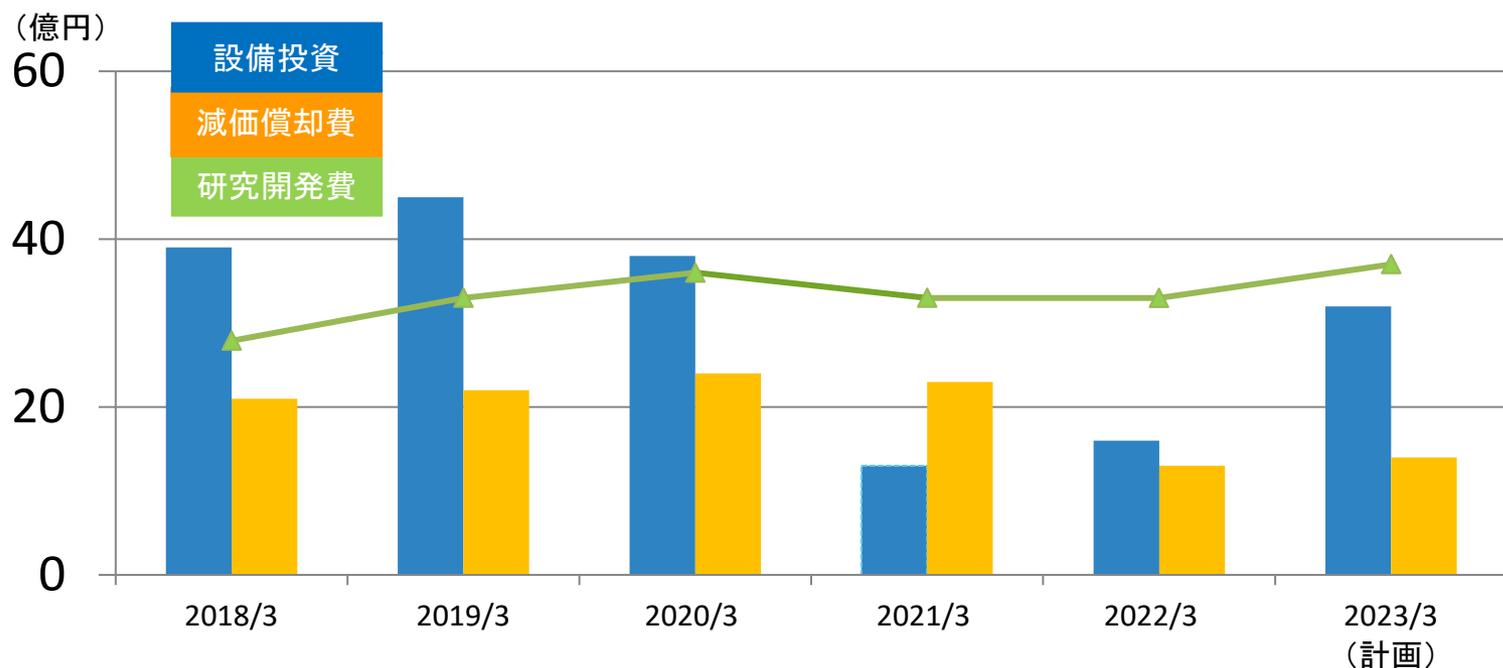


研究開発費・設備投資等の推移〔連結〕

研究開発投資・設備投資を拡大

22年3月期（実績） 設備投資16億円（リース資産3億円含む）
減価償却費13億円、研究開発費33億円

23年3月期（計画） 設備投資32億円（リース資産17億円含む）
減価償却費14億円、研究開発費37億円



株主還元

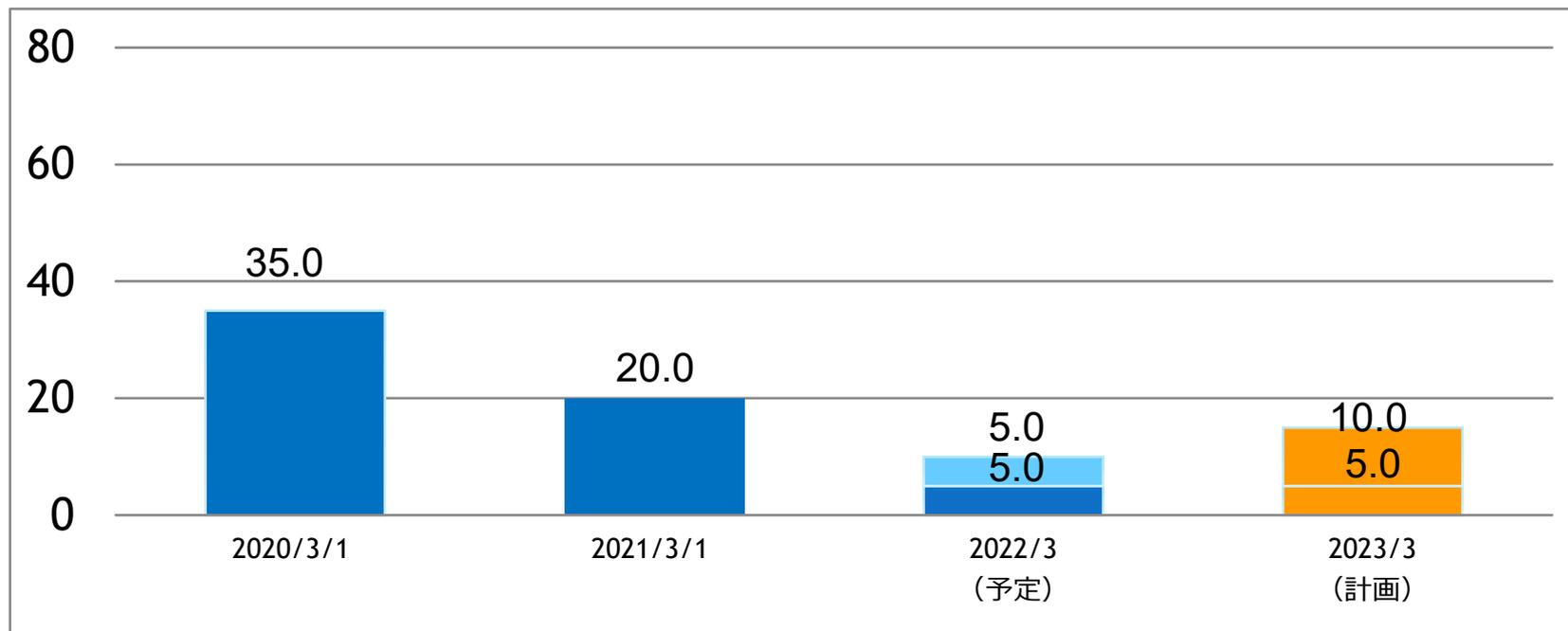
2022年3月期

中間配当金5円を実施、期末配当金5円を予定

2023年3月期(計画)

中間配当金5円 期末配当10円

(円)



中期経営計画

2021年5月 中期経営計画「Ever Onward 2023」を発表

- ・「**変革**」と「**再生**」をキーワードに、早期の黒字回復を目指す。
- ・業界全体に変革の流れを作り、将来の成長へとつなげる。



(億円)	2017年度 実績	2020年度 実績
売上高	718	244
営業利益	149	△91
経常利益	155	△72
当期純利益	112	△178



2023年度 目標	増減率 2020→2023
540	+121%
20	—
25	—
20	—

外部環境と当社課題

外部環境の変化

消費者

- 人口増加等によるGDPの拡大
- 消費行動の変化
(コト消費、SDGsへの関心、SNSの普及)

サプライヤー

- スマート工場やDX化の機運の高まり
- 成型機への投資が一巡、無縫製機投資へ
- 横編機の低価格化への要望

リテーラー

- コロナ禍を背景にしたEC化の加速
- SDGs対応への関心の高まり

競合他社

- 価格競争力の向上と製品ラインアップの充実
- 業界再編の動き

機会の 拡大

- 中長期での安定的なアパレル市場
- 環境変化による新たな市場の創出 (DX化やSDGs対応など)

当社課題

- [ホールガーメント] × [ソリューション] への事業構造の移行
- 顧客ニーズに応える製品の開発・供給スピードの向上
- 新たな領域での事業展開 (既存事業周辺領域など)

中期経営計画の重点施策

① ホールゲーム事業の最強化

▶ 成型機中心からWG機中心の事業構造へ

② ソリューションビジネスへの業態変換

▶ ファッション業界全体のサプライチェーン改革へ

③ 独自性を持った事業多角化の推進

▶ 早期の新事業立ち上げによる経営安定化へ

④ 社会の変化に対応した経営基盤の再構築

▶ コロナ後を見据えた経営体制へ

・ ホールガーメント横編機 SWG-XRを発表

- ・ 従来機種と比べて25%以上の生産効率向上
- ・ デザインの多様化を実現し、オールシーズン対応
- ・ お客様のオペレーションを簡素にし、省人化／省力化
- ・ フラッグシップモデルとしてホールガーメント浸透を図る



・ CAD／CAMのラインナップを充実

2021年7月 APEXFizに自動裁断機向け追加ラインナップ「APEXFiz PGM」をリリース

- ・ パターン設計からサイズ展開、裁断まで一連のモノづくりをサポート
- ・ 「面の発想」に基づいた操作で、より使いやすくなるよう設計

2022年3月 自動タオル裁断機「SATC90」をリリース

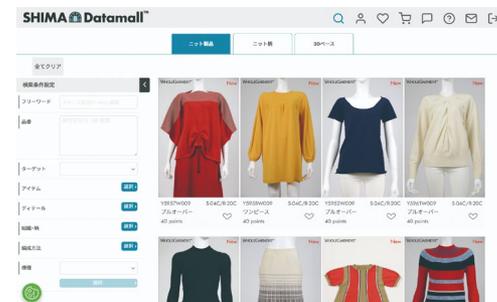
- ・ 高精細カメラでの画像処理と、高い裁断技術の融合
- ・ タオル業界の課題に大きく貢献、生産性の大幅向上

・ソリューションビジネスを強化

2022年中（予定）

デジタルデータ提供サービス「SHIMA Datamall」をリリース

- ・ SDS-ONE APEXシリーズで活用できるニットサンプルなど、各種デジタルデータの検索・閲覧・購入が可能
- ・ yarnbankなど当社の様々な製品やサービスと組み合わせ、アパレル業界のDX化とサステナビリティを推進



・世界各地の展示会が再開

2022年5月 「JEC WORLD展」(フランス)

アパレルファッション業界以外の異業種に向け、産業資材用途のサンプルを出品

2022年11月（予定）

「ITMA ASIA + CITME 2022」(中国)

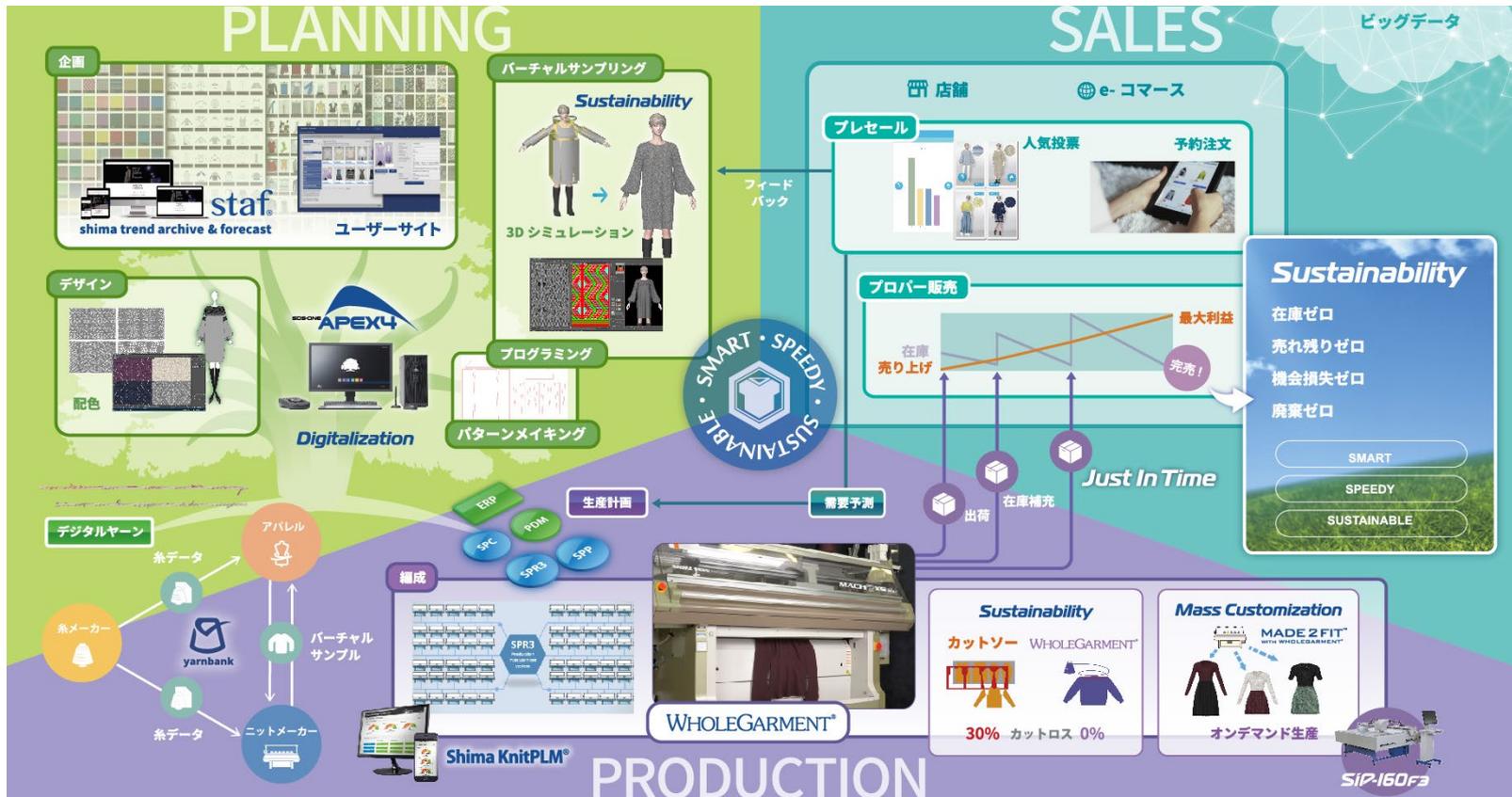
トータルファッションシステム

当社が提唱する「トータルファッションシステム」は、

デジタル化、マスカスタマイゼーション、サステナビリティを実現

3Dデザインシステムを核に、企画・生産・販売の全ての工程がそれぞれ相互に情報を取り交わし

密接に関わりスピーディーでスマートな環境に優しいモノづくりが可能



横編みニットの特性である「素材から形をつくる」は大量生産型のモノづくりからの脱却、個性化の時代に対応します。

横編み技術をファッションの枠にとどめず、多彩な分野にひろげ、需要の拡大を目指します。



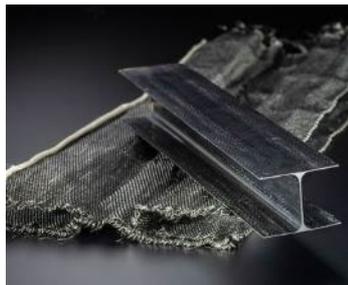
立体編成技術



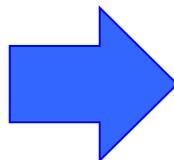
インレイ（横糸挿入）編成技術



ナイロンモノフィラメント



炭素繊維プリフォーム



スポーツ、インテリア、産業資材、
メディカル、ウェアラブル、自動車、航空宇宙

SHIMA SEIKI

本資料に記載されている当社の計画および業績の見通し、戦略などは、発表日時点において入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、様々な要因により大きく異なる可能性がありますことを、予めご承知おきください。